

玉ねぎの試験

1. 試験目的（重点開発目標）

（1）極早生玉ねぎ品種の選定

【試験目的】 早期（端境期）に販売できる品種を選定する

【求める特性】 熟期、品質、収量性、耐病性

2. 試験方法

（1）処理区/対照品種・供試品種

・対照品種：「SN-3A」

・供試品種：「バレットベア」、「北はやて2号」、「オホーツク222」、「オホーツク333」

（2）栽培方法

・播種、定植時期 : 2/12 播種、4/25 定植

・収穫時期 : 8/13

・施肥(N,P,K kg/10a) : N : 12.0, P : 24.0, K : 5.0

・栽培様式 : 条間 30cm、株間 11cm、栽植密度 30,303 株/10a

・調査株数 : 88 株/品種・3 反復

・防除 : 場内慣行に準じる

・前作 : 玉ねぎ

（3）調査項目

・倒伏日、収量性（重量、規格内率）、腐敗・障害・病害発生率、品質

3. 生育概況

・4月中下旬における連続的な降雨により圃場設置が大幅に遅れ、碎土が不十分な状態での定植となった。そのため、5月上旬から気温は高く推移したものの、活着が遅れた。

・6月中旬以降における極端な高温干ばつにより、品種によっては地上部の生育が不十分なまま倒伏を迎えた。同時に7月中旬にスリップスによる食害も確認され、その結果小玉傾向となった。

4. 極早生玉ねぎ品種の選定 試験結果概要（対照品種「SN-3A」との比較）

（1）「バレットベア」

- ・倒伏期は7/13、対照品種と比較すると2日遅かった。
- ・平均一球重がやや小さく、総収量および規格内収量が低かった。

（2）「北はやて2号」

- ・倒伏期は7/11、対照品種と同日だった。
- ・平均一球重はやや小さいものの、総収量は同程度で規格内収量が高かった。

（3）「オホーツク 222」

- ・倒伏期は7/19、対照品種と比較すると8日遅かった。
- ・平均一球重がやや小さく、総収量および規格内収量が低かった。
- ・接種検定における乾腐病罹病率（5.7%）は対照品種と同程度だった。

（4）「オホーツク 333」

- ・倒伏期は7/18、対照品種と比較すると7日遅かった。
- ・平均一球重はやや大きく、総収量は同程度で規格内収量が高かった。
- ・接種検定における乾腐病罹病率（3.4%）は対照品種と同程度だった。

以上

表. 令和7年度極早生玉ねぎ品種の選定結果

品種名	種苗会社	倒伏期 (月.日)	総収量 (kg/10a)	平均 一球重 (g)	規格内 収量 (kg/10a)	乾腐病 罹病率 (%) ^a
SN-3A	七宝農研	7.11	3,715	123	2,617	9.1
バレットベア	タキイ種苗	7.13	3,001	99	2,185	30.7
北はやて2号	タキイ種苗	7.11	3,556	117	2,867	36.4
オホーツク222	七宝	7.19	2,878	95	2,010	5.7
オホーツク333	七宝	7.18	3,619	119	2,983	3.4

a; 浸根接種法による接種検定結果



図. 対照品種・各供試品種の収穫物